

長浜上八ノ久保遺跡

福岡県筑後市大字長浜所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第 94 集

2010 年（平成 22 年）

筑後市教育委員会

序

本書は、市の企業誘致に伴い、筑後市教育委員会が平成20年度に実施した長浜上八ノ久保遺跡（第1次調査）埋蔵文化財発掘調査の記録です。

本書の記録が、今後の文化財保護思想普及の一助として、また、学術研究の資料として活用していただければ幸いに存じます。

発掘調査から本書を刊行するにあたり、ご協力を賜りました関係者の方々に厚くお礼を申し上げる次第です。

平成22年3月

筑後市教育委員会

教育長 城戸 一男

例 言

1. 本書は、企業誘致に伴い、筑後市教育委員会が平成20年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 発掘調査経過は「I.はじめに」に記載する。
3. 発掘調査は筑後市教育委員会が行った。
4. 発掘調査で記録した図面類・写真類・出土遺物等は、教育委員会で所蔵・保管・管理を行っている。
5. 発掘調査で使用した測量座標は、国土調査法第II座標系（世界測地系）を基準としており、本書に示される方位はG.N.を示す。従って、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものであり、水準についてはT.P.を基準とする。
6. 本書に使用した図面類・写真類は、小林勇作が作成し編集した。

目 次

I.はじめに	1
II.位置と環境	2
III.調査成果	7
IV.まとめ	10

I . はじめに

筑後市が企業誘致を推進する土地（筑後市大字長浜 556-1）について、筑後市教育委員会が試掘調査を実施したところ、ほぼ全域から遺構が確認された。その後、企業誘致に伴う宅地造成が計画され、筑後市教育委員会は遺構が削平される範囲について発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、平成 20 年 11 月 14 日から重機による表土剥ぎ（有限会社徳光建設）、遺構の検出、掘削作業、実測、写真撮影など考古学的手法による記録保存を実施し平成 20 年 12 月 3 日に現地の調査を終了した。平成 21 年度には整理作業（遺物洗浄、乾燥、実測、復元、浄書作成）を行い、記録類を基に報告書を作成した。

【調査組織】

1. 平成 20 年度（発掘調査）

総括	教育委員会教育長	城戸 一男
	社会教育部長	田中 僚一
庶務	社会教育課長	永松 三夫
	文化スポーツ係長	田中 純彦
	文化スポーツ係	永見 秀徳
		小林 勇作（調査担当）
		上村 英士
		吉村由美子（嘱託）

2. 平成 21 年度（整理作業・報告書作成）

総括	教育委員会教育長	城戸 一男
	協働推進部長	田中 僚一
庶務	社会教育課長	山口 辰樹
	社会教育係長（文化スポーツ担当）	田中 純彦
	社会教育係	小林 勇作（整理・報告書担当）
		上村 英士
		中島 征弘
		吉村由美子（嘱託）

3. 発掘調査参加者（順不同・敬称略）

井上むつ子・今山美咲子・植田 勝子・蒲池 京子・河添 幸子・隈本 千城・下川 義文・角 里子・中村 富男・中村 三男・原 秋子・堀田 武利・田島 好江・田平 利彦・田島ヤス子・堤 義弘・原 清隆・三瀬美樹子・満川香代子・本村 弘年・渡邊 泰子

4. 整理作業参加者（順不同・敬称略）

野口 晴香・野間口靖子・横井 理恵

II. 位置と環境

筑後市は、福岡県の南西部、筑後平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号線が縦断し、国道442号線が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畠、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市域は、国道に沿って市の中心部に形成されている。

長浜上八ノ久保遺跡周辺では、北方約500m地点の長浜鎧遺跡から縄文早期の落とし穴が確認されており、南方約200m地点の鶴田溝代遺跡からは近世の溝が検出されているのみで、当地域は遺跡数から見ても空白地帯となっている。

【参考文献】

「筑後市史第一巻」 筑後市 平成9年

「鶴田溝代遺跡」「筑後東部地区遺跡群IV」 筑後市文化財調査報告書第30集 筑後市教育委員会 2000

「長浜鎧遺跡」「筑後市内遺跡群II」 筑後市文化財調査報告書第33集 筑後市教育委員会 2001



Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

周辺遺跡名

- 1 長浜上八ノ久保遺跡
- 2 長浜鎧遺跡
- 3 徳久中牟田遺跡
- 4 鶴田東大坪遺跡
- 5 新溝丸遺跡
- 6 鶴田溝代遺跡
- 7 山ノ井川口遺跡
- 8 新溝古渡瀬遺跡
- 9 山ノ井南野遺跡
- 10 前津重遺跡



Fig.2 調査地点位置図 (1/2,500)

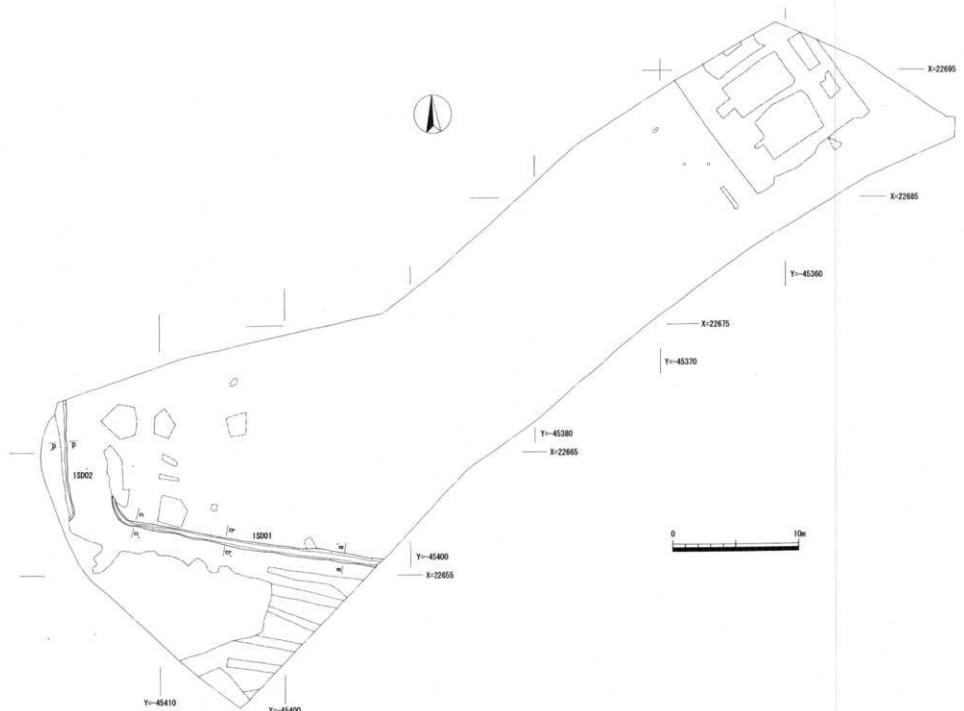


Fig.3 A 調査区遺構全体実測図 (1/300)

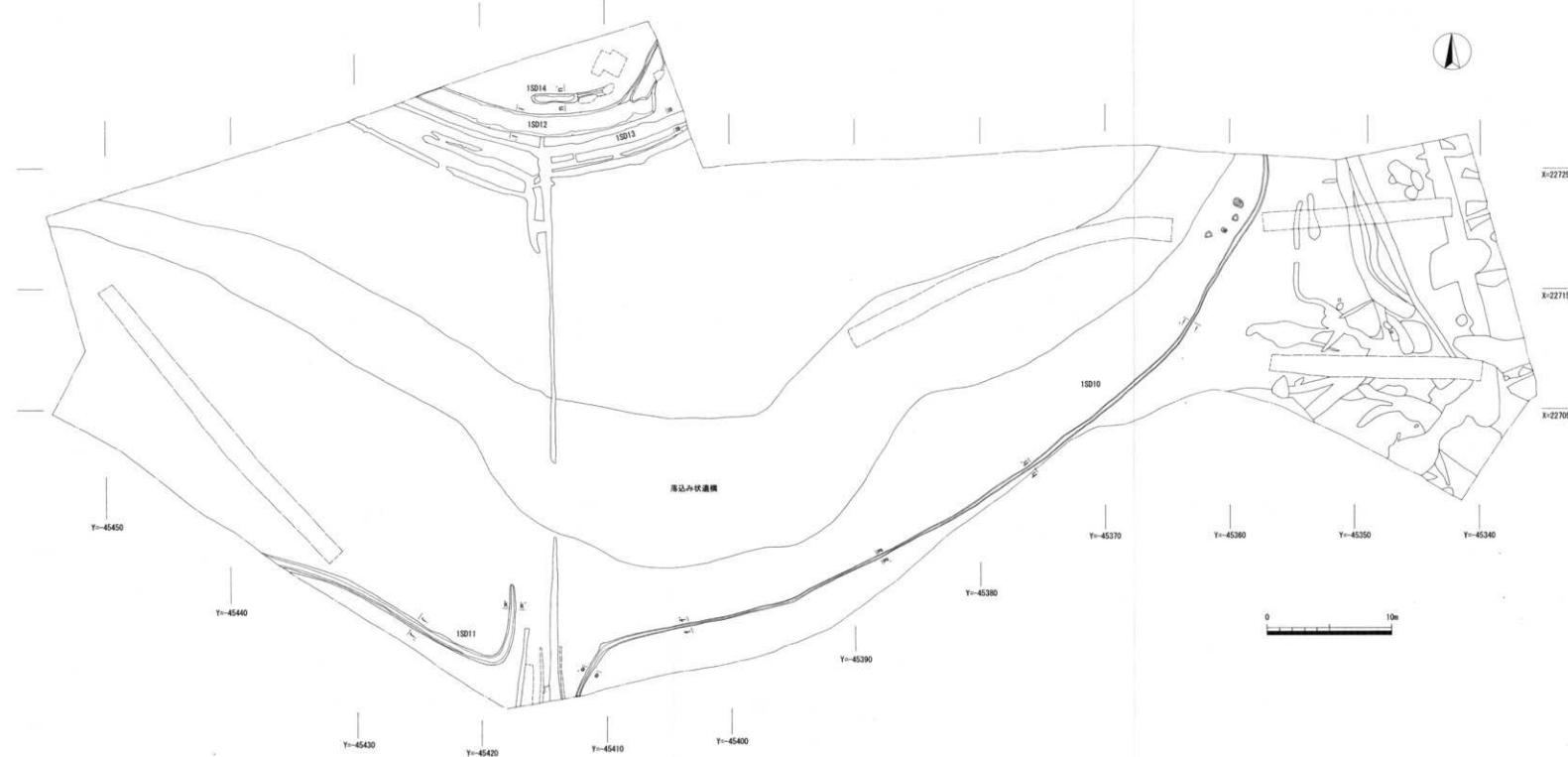


Fig.4 B 調査区遭構全体実測図 (1/300)

III. 調査成果

(1) 検出遺構

当調査区は蛇行した東西水路を挟んで南北2箇所を設定し、南側調査区を「A調査区」、北側調査区を「B調査区」と称した。

溝

1SD01 (Fig.3・5, Pla.7)

A調査区で検出した東西方向の細長い溝で、西端は北方向へ湾曲しながら終息する。現況水路を挟んだ北側のB調査区からも同等規模の1SD10を検出しておらず、一連の溝である可能性が考えられる。検出長約23m、幅0.40～0.62m、深さ0.10～0.27mを測り、溝の断面形は逆台形状を呈する。茶褐色土を基調とする埋土がレンズ状に堆積しており、当遺構からの出土遺物を得ることはできなかった。

1SD02 (Fig.3・5, Pla.8)

A調査区で検出した南北方向の溝である。長さ約9.5m分を検出し、深さは0.28m程度を測る。幅は溝西側が攪乱を受けていたため計測不能であった。近現代の陶磁器が出土している。

1SD10 (Fig.4・5, Pla.9)

B調査区で検出した。溝は南部及び南東部に広がる丘陵袖部に沿って蛇行しながら南西から北東にかけて延びる。長さ約80m分を検出し、幅0.23～0.56m、深さ0.14～0.27mを測る。溝の断面形は方形形状を呈し、黒茶色土を基調とする埋土が堆積する。黒曜石剥片を僅かに1点出土したのみであった。

1SD11 (Fig.4・5, Pla.4)

B調査区の南西部で検出した。溝の平面プランは逆L字形状を呈し、検出長約27m、幅27.0～33.0cm、深さ0.25～0.50cmを測る。溝の断面形は概ね緩やかなU字形状を呈し、埋土は暗灰褐色土の單一土層が確認された。溝内の南岸側は段差を生じており、補修が行われたものと思われる。

1SD12 (Fig.4・5, Pla.10)

B調査区の北端中央部で検出した半円形状に湾曲した溝で1SD13を切っている。幅1.5～1.9m、深さ0.11～0.27mを測り、溝の南東部は僅かに屈曲する。矢部線跡である現在の東西道路を隔てた北側には、当溝に繋がると考えられる地割と水路が現存しており、当溝は旧地割に伴った水路であることが想定される。遺物は近世の土師器（小皿・土鍋）、染付（碗・片）、陶器（擂鉢・茶釜・碗・片）、鉄製品（鎌・釘）が出土した。

1SD13 (Fig.4・5, Pla.10)

B調査区で1SD12の外周を廻るように検出された溝で溝の中央部は南北方向に分岐し、1SD12に切られている。断面形はU字形状を呈し、土層断面からは數度の補修跡が確認された。遺構の性格は先述した1SD12と同様に旧地割に伴った水路と考えられ、切り合いから1SD12以前の地割であったと捉えられる。遺物は中世から近世にかけての土師器（片）、青磁（片）、染付（碗・片）、陶器（擂鉢・片）が出土している。

1SD14 (Fig.4・5)

1SD12の北側で検出し、1SD12と同じく北側へ湾曲する。長さ約7m、幅0.65～0.80m、深さ0.11～0.23mを測り、埋土は乳黄色粘質土を呈する。切り合いがないため先後関係は不明であるが、遺物は近世の土師器（片）、染付（碗・片）、陶器（擂鉢・片）、鉄製品（片）が出土しており、1SD12・13と同様に旧地割に伴う溝の痕跡と考えられる。

ピット

1SP03～06 (Fig.4, Pla.11)

B調査区北東部で検出したピットで、西側の落ち込みに面して弧を描くように4穴が確認された。出土遺物が得られていないため時期は不明であるが、埋土は1SD10と同様の黒茶色土を呈しており、同

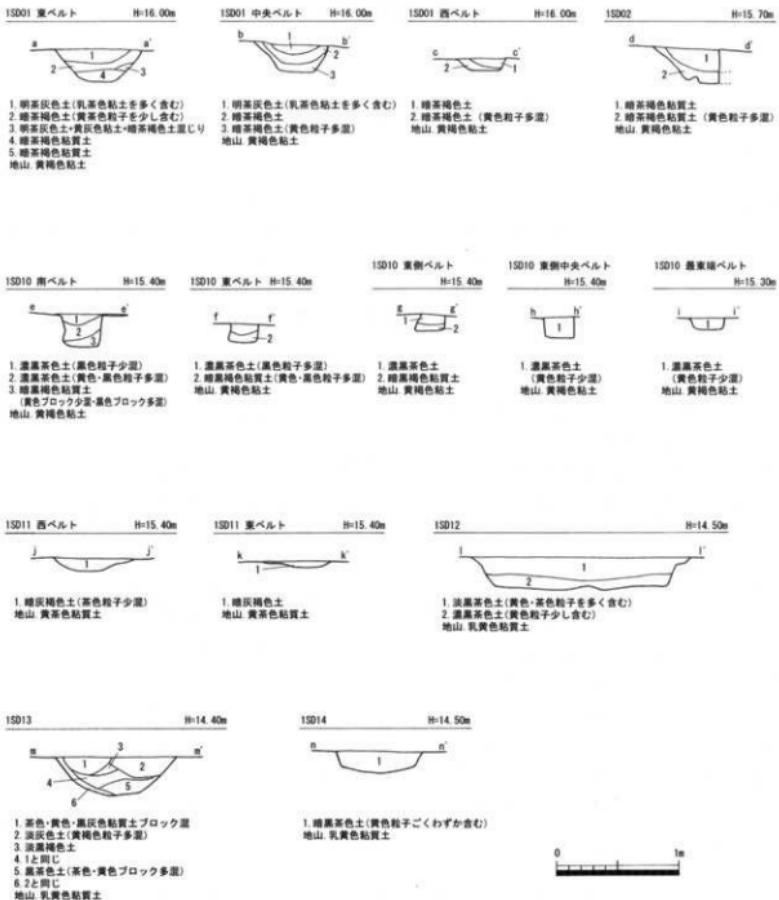


Fig.5 溝 (ISD01・02・10~14) 土層断面実測図 (1/40)

時期に存在していた可能性が考えられる。ISD03は梢円形状を呈し、径 0.70 ~ 0.90m、深さ 0.47m、ISD04は不定円形状を呈し、径 0.50 前後、深さ 0.08m、ISD05は梢円形状を呈し、径 0.45m 前後、深さ 0.44m、ISD06は不定梢円形状を呈し、径 0.60m 前後、深さ 0.07m を測る。このうち ISD03 及び ISD05 からは柱痕が検出された。

不明遺構 (Fig.4, Pla.12)

B 調査区の東端からは縦横無尽に走る溝状痕跡や不定形状の土坑などが多数確認された。近現代の土器に加えて昭和期の遺物が多く混入し、現代の攪乱と判明した。

(2) 出土遺物

溝

1SD12 (Fig.6, Pla.13)

土師器

小皿 (1) 底部細片で底径 3.2 cm を測る。外底は糸切りで、外面に煤が薄く付着している。磨耗が著しく内外面の調整は不明であるが焼成は良好である。

染付

碗 (2 ~ 5) 2 は口縁部細片で口径 9.8 cm を復元する。淡灰白色の素地を呈し、外面に呉須で文様を描く。釉調は透明度が低く光沢のない淡白灰色を呈する。3 は淡乳白色の素地にやや緑がかった呉須で外面に文様が描かれている。釉調は透明度の低く光沢あり。4 は口縁部細片で素地は淡茶灰色を呈する。釉調は光沢のある透明釉を施し、外面には呉須で文様が描かれる。5 は底部細片で高台径 4.2 cm を復元する。素地は乳白色を呈し、外面に淡青色の呉須で草花文を描く。やや青味がかった透明釉を疊付け以外に施釉する。

陶器

水柱 (6) 把手部の細片で直径 8.5 mm の穿孔が施されている。暗茶色の素地に透明度の低い淡黄茶褐色釉を外面のみに厚く施す。

碗 (7) 口縁部の細片で体部と口縁部境は屈曲する。

淡白茶色の素地に透明釉をかけ、内外面には細かな

貫入が認められる。

1SD13 (Fig.6, Pla.13)

土師器

土鍋 (8) 口縁部は玉縁状を呈する。内外面は磨耗のため調整不明であるが、口縁部外面に指頭痕が認められる。

白磁

碗 (9) 底部細片で体部、高台部を欠損する。淡灰色の素地に淡灰緑色釉を見込み及び高台外面に施釉し、高台外面は釉ダレを認める。高台内及び高台下端部はヘラケズリ調整で露胎を呈する。V類。

染付

碗 (10) 底部細片で高台径 5.0 cm を復元する。疊付け以外に透明度の高い淡青緑色釉を施し、細かな貫入が認められる。外面には呉須で文様が描かれ、見込みにはハリ目跡が残る。

陶器

擂鉢 (11) 口縁部細片で端部は如意状に折り返して貼り付ける。淡灰茶色の素地にくすんだ淡黒紫色の鉄釉を内外面に施し、内面には擂り目が認められる。

1SD14 (Fig.6, Pla.13)

染付

碗 (12・13) 共に口縁部細片で端部は僅かに外反する。口縁端部内面及び口縁部外面に呉須で文様が描かれ、内外面に施釉する。12 は淡茶色、13 は淡灰白色の素地を呈する。

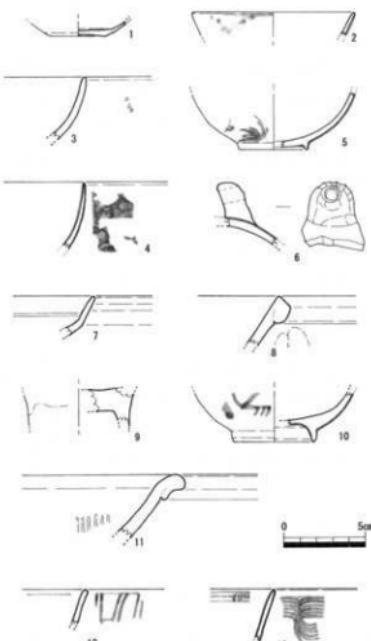


Fig.6 溝 (1SD12 ~ 14) 出出土器実測図 (1/3)

IV. まとめ

当調査における主たる遺構は、溝（1SD01・02・10～14）、ピット（1SP03～06）である。

黒曜石剥片を出土した1SD10は、南部と南東部に広がる丘陵袖部に沿って検出されており、この状況から丘陵部と谷部を区画する目的で構築された可能性が考えられる。遺構の検出状況からは1SD01と連結していた可能性も考えられる。土層断面からは、流水が伴っていたかどうかは不明であるが、用排水を兼ねていた区画溝であったかもしれない。溝の区画内では未だ遺構の存在が明らかではないが、今後の資料収集で解明されることを期待したい。

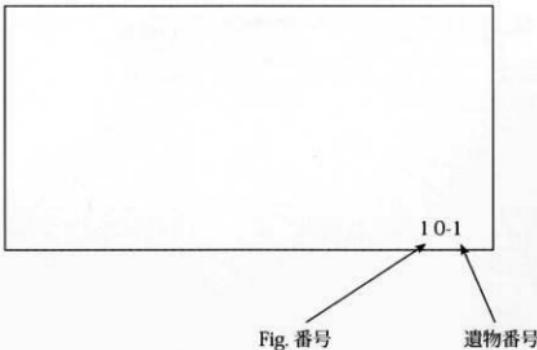
近世以降の遺物が出土した1SD02、1SD11～14は、旧地割に伴って構築された溝であることが予想される。性格としては土地区画と用排水を兼ねていたものと思われる。溝を分断する現代の道路は、昭和20年に開通した旧国鉄の地方線（羽犬塚—黒木間）の敷設路であり、昭和11年に着工されたことがわかっている。当地が土地制約を受けたのはこの時期であり、1SD02、1SD11～14から出土した遺物の時期とほぼ合致する。

弧を描くかのように配された4穴のピット（1SP03～06）は、時期を判断する遺物に恵まれていない上に性格も判然としない。東側で検出した1SD10に似た埋土をしていることから、同時期に存在していたことが想定されるが、1SD10に関連した施設であるか否かは定かでない。

P L A T E

凡 例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。

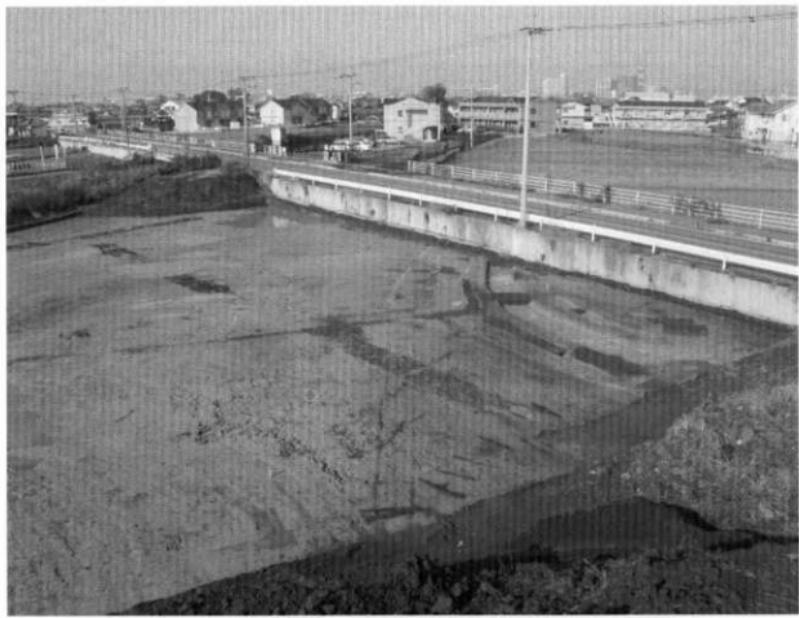




Pla.1 A 調査区西側全景（東から）



Pla.2 A 調査区東側全景（西から）



Pla.3 B 調査区西側北部全景（東から）



Pla.4 B 調査区西側中央部全景（東から）



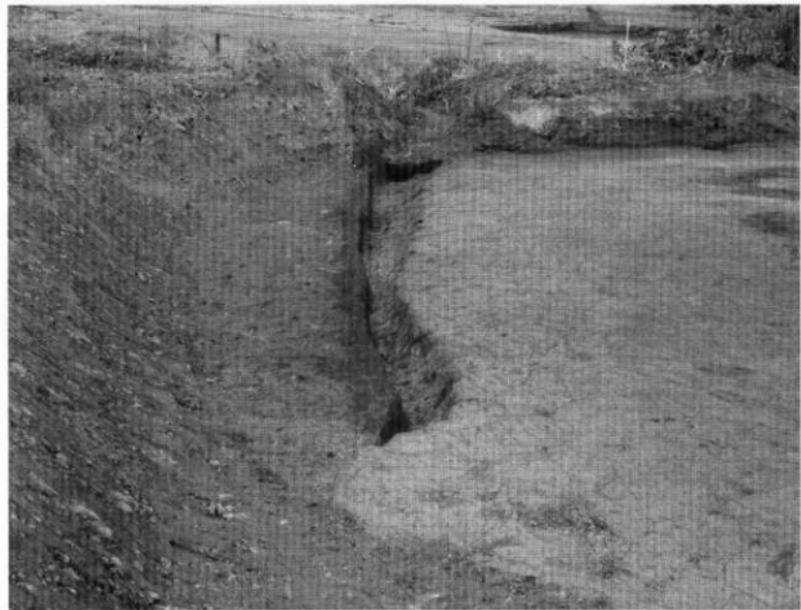
Pla.5 B 調査区西側南部全景（東から）



Pla.6 B 調査区東側全景（西から）



Pla.7 1SD01 完掘状況（東から）



Pla.8 1SD02 完掘状況（南から）



Pla.9 1SD10 完掘状況（西から）



Pla.10 1SD12・13 検出状況（東から）

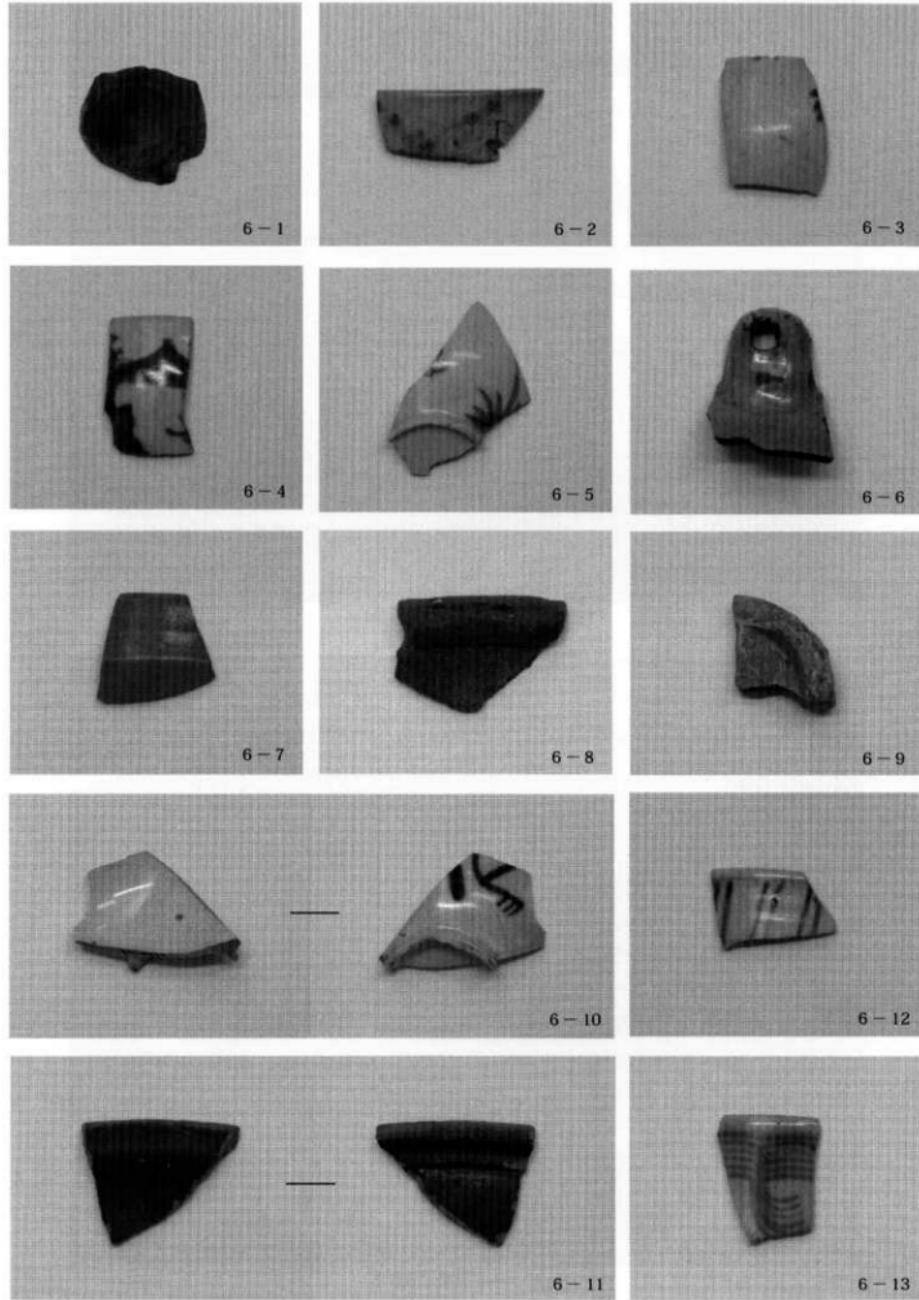


Pla.11 ピット完掘状況（西から）



Pla.12 不明遺構（南から）

Pla.13 出土遺物



長浜上八ノ久保遺跡

福岡県筑後市大字長浜所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第94集

平成22年3月30日

発行 筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898

印刷 株式会社 秀明社印刷

大牟田市中白川町 3-172

TEL 0944 (52) 5601